

鑑定評価書（令和8年地価調査）

令和8年7月6日提出

豊山(県)-1 宅地-1

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	合同会社千早不動産コンサルティング
豊山(県)-1	愛知県	愛知第6	氏名	不動産鑑定士 井上 徹
鑑定評価額	15,700,000 円		1㎡当たりの価格	101,000 円/㎡

1 基本的事項

(1)価格時点	令和8年7月1日	(4)鑑定評価日	令和8年7月3日	(6)路線価	[令和8年1月] 路線価又は倍率 倍率種別	円/㎡ 1.2 倍
(2)実地調査日	令和8年6月23日	(5)価格の種類	正常価格			
(3)鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	①所在及び地番並びに「住居表示」等		西春日井郡豊山町大字豊場字若宮 6 3 番 4				②地積 (㎡)		155 ()		⑨法令上の規制等	
	③形状	④敷地の利用の現況		⑤周辺の土地の利用の状況		⑥接面道路の状況	⑦供給処理施設状況	⑧主要な交通施設との接近の状況		1 住居 (60, 200)		
	1:2	住宅 W2		中小規模一般住宅の外に共同住宅等の見られる住宅地域		南5.5m町道		水道、ガス、下水		名鉄味美 2.1km (その他)		
(2) 近隣地域	①範囲		東 20 m、西 150 m、南 100 m、北 30 m				②標準的使用		戸建住宅地			
	③標準的画地の形状等		間口 約 12.5 m、奥行 約 16 m、規模 200 ㎡程度、形状 長方形									
	④地域的特性	特記事項	エアポートウォーク名古屋に近接した住宅地		街路	基準方位北、5. 5 m町道	交通施設	名鉄味美駅 北西方2.1km		法令規制	1 住居 (60, 200)	
	⑤地域要因の将来予測	空地も多く見られる住宅地だが、生活の利便性は良好であり、今後は宅地開発が進展して住宅地としての熟成度が増していくものと予測する。										
(3)	最有効使用の判定		戸建住宅地				(4)対象基準地の個別的要因		方位 +6.0			
(5)	鑑定評価の手法の適用		取引事例比較法		比準価格		101,000 円/㎡					
			収益還元法		収益価格		／ 円/㎡					
			原価法		積算価格		／ 円/㎡					
			開発法		開発法による価格		／ 円/㎡					
(6)	市場の特性		同一需給圏は豊山町及び周辺市の住宅地域である。需要者の中心は地元へ地縁関係を有する一次取得者層である。町内に鉄道駅はないが、生活の利便性は良好な地域であり、地価はこのところ堅調に推移してきたが、建築費の高騰や金利の上昇基調などから、先行きは不透明な状況である。取引の中心となる価格帯は、土地が1 5 0 0 万～2 0 0 0 万円、新築の戸建分譲が3 0 0 0 万円～4 0 0 0 万円である。									
(7)	試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由		比準価格は対象基準地と価格牽連性の高い豊山町内の住宅地の取引事例を採用して比準したものであり、当地域の不動産市場の現実的な動向を反映した実証的で説得力の高いものである。一方、対象基準地の画地条件から経済合理性を有する賃貸用建物の建築を想定することが困難であったため、収益還元法は適用しなかった。以上のことから、本件では比準価格を標準とし、周辺の標準地との均衡にも留意して鑑定評価額を上記のとおり決定した。									
(8)	公示価格	① ☐ 代表標準地 ☒ 標準地	②時点修正	③標準化補正	④地域要因の比較	⑤個別的要因の比較	⑥対象基準地の標準価格 (円/㎡)	⑦内訳	標準化補正	街路 0.0 交通 0.0 環境 0.0 画地 0.0 行政 0.0 その他 0.0	地域要因	街路 0.0 交通 -2.0 環境 0.0 行政 0.0 その他 0.0
		標準地番号 豊山-3										
(9)	指定からの検討	①指定基準地番号	②時点修正	③標準化補正	④地域要因の比較	⑤個別的要因の比較	⑥対象基準地の比準価格 (円/㎡)	⑦内訳	標準化補正	街路 交通 環境 画地 行政 その他	地域要因	街路 交通 環境 行政 その他
		前年指定基準地の価格 円/㎡	[] 100	100 []	100 []	[] 100						
(10)	対象基準地の前年の検討	①-1 対象基準地の検討		③価格変動要因の	[一般的要因] 建築費の高騰が続いている。住宅ローン金利に上昇のきざしが見られる。豊山町の人口は微増から横ばい傾向である。 [地域要因] 地域要因に特段の変動はない。 [個別的要因] 個別的要因に変動はない。							
		☒ 継続 ☐ 新規										
		前年標準価格 99,600 円/㎡										
		①-2 基準地が共通地点（代表標準地等と同一地点）である場合の検討										
		☐ 代表標準地 ☐ 標準地										
		標準地番号										
		公示価格 円/㎡										
		②変動率	年間 +1.4 %	半年間 %								

鑑定評価書（令和8年地価調査）

令和8年7月4日提出
豊山(県)-2 宅地-1

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	株式会社安達不動産鑑定調査
豊山(県)-2	愛知県	愛知第6	氏名	不動産鑑定士 安達 直樹
鑑定評価額	11,100,000 円	1㎡当たりの価格	93,500 円/㎡	

1 基本的事項

(1)価格時点	令和8年7月1日	(4)鑑定評価日	令和8年7月3日	(6)路線	[令和8年1月 路線価又は倍率 倍率種別]	円/㎡ 1.2 倍
(2)実地調査日	令和8年6月15日	(5)価格の種類	正常価格			
(3)鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	①所在及び地番並びに 「住居表示」等		西春日井郡豊山町大字豊場字栄2 3 番 5				②地積 (㎡)	119 ()	⑨法令上の規制等		
	③形状	④敷地の利用の現況	⑤周辺の土地の利用 の状況		⑥接面道路の状況	⑦供給 処理施 設状況	⑧主要な交通施設との 接近の状況		1 中専 (60, 200)		
	1:2	住宅 S3	一般住宅を主として 小工場、アパート等 が混在する住宅地域		北西6.9m町道	水道、 ガス	名鉄味美 3.8km		(その他)		
(2) 近隣 地域	①範囲		東 100 m、西 70 m、南 50 m、北 120 m			②標準的使用		戸建住宅地			
	③標準的画地の形状等		間口 約 10 m、奥行 約 20 m、規模 200 ㎡程度、形状 長方形								
	④地域的特性	特記 事項	特にない		街 路	基準方位北、 6. 9m町道	交通 施設	名鉄味美駅 北西方3.8km		法令 規制	1 中専 (60, 200)
	⑤地域要因の 将来予測		戸建住宅、共同住宅と小工場や倉庫等の混在する地域で、地域要因に特段の変動はなく、当面は現状のまま推移するものと予測する。								
(3) 最有効使用の判定		戸建住宅地						(4) 対象基準地 の個別的要 因	方位 0.0		
(5) 鑑定評価の手法 の適用	取引事例比較法		比準価格 93,500 円/㎡								
	収益還元法		収益価格 / 円/㎡								
	原価法		積算価格 / 円/㎡								
	開発法		開発法による価格 / 円/㎡								
(6) 市場の特性		同一需給圏は豊山町及び周辺市の住宅地域である。需要者の中心は地元へ地縁を有する一次取得者である。町内に鉄道駅はないが、バス利用により名古屋市中心部へのアクセスが可能であり、生活利便性は良好である。名古屋市内と比較した割安感もあり、地価は堅調に推移している。建築費の上昇や金利上昇リスクを背景に、総額面で慎重な需要も見られる。取引価格帯は、土地が1500万～2000万円、新築戸建分譲が3000万円～3500万円程度である。									
(7) 試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由		比準価格は、同一需給圏内の市街化区域に存する住宅地域の取引事例を採用し、各事例の規範性に依拠して試算した実証的な価格である。一方、対象不動産は画地条件から経済合理性を有する賃貸用建物の想定が困難であるため、収益還元法は適用しなかった。したがって、比準価格を標準とし、単価と総額との関係等にも留意して、鑑定評価額を上記のとおり決定した。									
(8) 公示 規 準 と し た 価 格	① ☐ 代表標準地 ☒ 標準地 標準地番号 豊山-3	②時点 修正	③標準化 補正	④地域要 因の比 較	⑤個別 的要因 の比 較	⑥対象基準地 の規準価格 (円/㎡)	⑦内 訳 標準化 補正	街路 0.0 交通 0.0 環境 0.0 画地 0.0 行政 0.0 その他 0.0	地域 要因	街路 -1.0 交通 0.0 環境 +1.0 行政 0.0 その他 0.0	
	公示価格 93,000 円/㎡		$\frac{100.5}{100}$	$\frac{100}{100.0}$	$\frac{100}{100.0}$	$\frac{100.0}{100}$		93,500			
(9) 指定 基 準 地 か ら の 検 討	①指定基準地番号	②時点 修正	③標準化 補正	④地域要 因の比 較	⑤個別 的要因 の比 較	⑥対象基準地 の比準価格 (円/㎡)	⑦内 訳 標準化 補正	街路 交通 環境 画地 行政 その他	地域 要因	街路 交通 環境 行政 その他	
	前年指定基準地の価格 円/㎡		$\frac{\quad}{100}$	$\frac{100}{\quad}$	$\frac{100}{\quad}$	$\frac{\quad}{100}$					
(10) 対 象 基 準 地 の 前 年 標 準 価 格 等 か の 検 討	①-1 対象基準地の検討 ☒ 継続 ☐ 新規 前年標準価格 92,800 円/㎡		③ 価 格 形 成 要 因 の 変 動 状 況	[一般的 要 因] 原材料価格の高騰や人手不足を背景に建築費が上昇し、地価への影響も顕在化している。加えて、金利上昇リスクにも留意を要する。							
	①-2 基準地が共通地点（代表標準地等と同一地点）である場合の検討 ☐ 代表標準地 ☐ 標準地 標準地番号 円/㎡			[地 域 要 因] 国道41号線背後の既成住宅地域である。特段の変動要因は見られないが、居住環境の良好さにより需要は底堅い。							
	公示価格 円/㎡			[個別的 要 因] 個別的要因に変動はない。							
	②変動率 年間 +0.8 % 半年間 %										

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	合同会社千早不動産コンサルティング
豊山(県)-3	愛知県	愛知第6	氏名	不動産鑑定士 井上 徹
鑑定評価額	21,300,000 円		1㎡当たりの価格	97,800 円/㎡

1 基本的事項

(1)価格時点	令和8年7月1日	(4)鑑定評価日	令和8年7月3日	(6)路線価	[令和8年1月] 路線価又は倍率 倍率種別	円/㎡ 1.2 倍
(2)実地調査日	令和8年6月23日	(5)価格の種類	正常価格			
(3)鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	①所在及び地番並びに「住居表示」等		西春日井郡豊山町大字豊場字流川5 5 番				②地積 (㎡) ()		218		⑨法令上の規制等		
	③形状	④敷地の利用の現況		⑤周辺の土地の利用の状況		⑥接面道路の状況	⑦供給処理施設状況	⑧主要な交通施設との接近の状況		準工 (60, 200)			
	1:1.5	住宅 W2		事務所、中小工場、小規模住宅が混在する地域		東5.5m町道	水道、ガス、下水	名鉄味美 3km		(その他)			
(2) 近隣地域	①範囲		東 0 m、西 100 m、南 60 m、北 100 m				②標準的使用		戸建住宅地				
	③標準的画地の形状等		間口 約 12 m、奥行 約 20 m、規模		240 ㎡程度、形状 長方形								
	④地域的特性	特記事項	特にない		街路	基準方位北、5.5 m町道		交通施設	名鉄味美駅 西方3km		法令規制	準工 (60, 200)	
	⑤地域要因の将来予測	周辺には倉庫等も見られるが、特段の変動要因はなく、当面は現状のまま推移するものと予測する。											
(3) 最有効使用の判定	戸建住宅地						(4)対象基準地の個別的要因	方位 +2.0					
(5)鑑定評価の手法の適用	取引事例比較法		比準価格 97,800 円/㎡										
	収益還元法		収益価格 / 円/㎡										
	原価法		積算価格 / 円/㎡										
	開発法		開発法による価格 / 円/㎡										
(6)市場の特性	同一需給圏は豊山町及び周辺市の住宅地域である。需要者の中心は地元へ地縁関係を有する一次取得者層である。町内に鉄道駅はないが、生活の利便性は良好な地域であり、地価はこのところ堅調に推移してきたが、建築費の高騰や金利の上昇基調などから、先行きは不透明な状況である。取引の中心となる価格帯は、土地が1 5 0 0 万～2 0 0 0 万円、新築の戸建分譲が3 0 0 0 万円～4 0 0 0 万円である。												
(7)試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由	比準価格は対象基準地と価格牽連性の高い豊山町内の住宅地の取引事例を採用して比準したものであり、当地域の不動産市場の現実的な動向を反映した実証的で説得力の高いものである。一方、対象基準地の画地条件から経済合理性を有する賃貸用建物の建築を想定することが困難であったため、収益還元法は適用しなかった。以上のことから、本件では比準価格を標準とし、周辺の標準地との均衡にも留意して鑑定評価額を上記のとおり決定した。												
(8) 公示価格	① ☐ 代表標準地 ☒ 標準地		②時点修正	③標準化補正	④地域要因の比較	⑤個別的要因の比較	⑥対象基準地の規準価格 (円/㎡)	⑦内訳	街路	0.0	地域要因	街路	0.0
	標準地番号 豊山-3								交通	0.0		交通	0.0
(9) 指定からの検討	公示価格 93,000 円/㎡		$\frac{100.5}{100}$	100 $\frac{100}{100.0}$	100 $\frac{100}{98.0}$	$\frac{102.0}{100}$	97,300	環境	0.0	環境	-2.0	行政	0.0
								画地	0.0	行政	0.0	その他	0.0
								行政	0.0	その他	0.0		
								その他	0.0				
(10) 対象基準地の検討	①指定基準地番号		②時点修正	③標準化補正	④地域要因の比較	⑤個別的要因の比較	⑥対象基準地の比準価格 (円/㎡)	⑦内訳	街路		地域要因	街路	
	前年指定基準地の価格 円/㎡		$\frac{100}{100}$	100 $\frac{100}{100}$	100 $\frac{100}{100}$	$\frac{100}{100}$			交通			交通	
(10) 対象基準地の検討	①-1 対象基準地の検討		③価格変動要因の形成要因	[一般的 要 因] 建築費の高騰が続いている。住宅ローン金利に上昇のきざしが見られる。豊山町の人口は微増から横ばい傾向である。									
	■ 継続 ☐ 新規			[地 域 要 因] 地域要因に特段の変動はない。									
	前年標準価格 97,000 円/㎡			[個別的 要 因] 個別的要因に変動はない。									
	①-2 基準地が共通地点（代表標準地等と同一地点）である場合の検討												
(10) 対象基準地の検討	☐ 代表標準地 ☐ 標準地												
	標準地番号 公示価格 円/㎡												
(10) 対象基準地の検討	②変動率	年間 +0.8 %	半年間 %										

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	株式会社安達不動産鑑定調査
豊山(県)5-1	愛知県	愛知第6	氏名	不動産鑑定士 安達 直樹
鑑定評価額	265,000,000 円		1㎡当たりの価格	125,000 円/㎡

1 基本的事項

(1)価格時点	令和 8年 7月 1日	(4)鑑定評価日	令和 8年 7月 3日	(6) 路線	[令和 8 年 1月	円/m ²
(2)実地調査日	令和 8年 6月 15日	(5)価格の種類	正常価格		路線価又は倍率 倍率種別	1.2 倍
(3)鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	①所在地及び地番並びに 「住居表示」等 西春日井郡豊山町大字豊場字高前1 8番					②地積 (㎡)	2,122 ()	⑨法令上の規制等			
	③形状	④敷地の利用の現況	⑤周辺の土地の利用 の状況	⑥接面道路の状況	⑦供給 処理施設 状況	⑧主要な交通施設との 接近の状況			近商 (80, 200) 準防		
	1:2	店舗 S3	中小の低層店舗、事業所等が建ち並ぶ郊外路線商業地域	西40m国道、三方路	水道、ガス、下水	名鉄味美 3.2km			(その他) (100, 200)		
(2) 近隣地域	①範囲	東 0 m、西 70 m、南 70 m、北 120 m				②標準の使用		低層店舗地			
	③標準的画地の形状等		間口 約 30.0 m、奥行 約 56.0 m、規模				2,122 ㎡程度、形状		長方形		
	④地域的特性	特記 事項	国道4 1号(名古屋高速1号高架)東側沿い	街 路	4 0 m国道	交通 施設	名鉄味美駅 北西方3.2km		法令 規制	近商 (80, 200) 準防	
	⑤地域要因の 将来予測	国道4 1号沿いの商業地域である。地域要因に特段の変動はなく、当面は現状のまま推移するものと予測する。									
(3) 最も有効使用の判定	低層店舗地					(4) 対象基準地の 個別的要 因	三方路		+6.0		
(5) 鑑定評価の手法 の適用	取引事例比較法		比準価格				129,000 円/㎡				
	収益還元法		収益価格				74,800 円/㎡				
	原価法		積算価格				／ 円/㎡				
	開発法		開発法による価格			／ 円/㎡					
(6) 市場の特性	同一需給圏は豊山町及び周辺市区の商業地域である。需要者の中心は、店舗・事務所としての利用を前提とする地元企業及び個人事業主である。当地域では近時新規出店は見られないが、名古屋市中心部から比較的近く交通量も多いため、需要は概ね安定しており、地価は堅調に推移している。もっとも、建築費の上昇や金利上昇リスクを踏まえると、用途・規模ごとの採算性が重視される。取引総額は規模・用途等により多様であり、中心となる価格帯は把握し難い。										
(7) 試算価格の調整・ 検証及び鑑定 評価額の決定の 理由	比準価格は、同一需給圏内の商業性を有する取引事例を中心に採用して試算した実証的な価格である。収益価格は不動産の収益性に着目した価格であるが、想定要素が多く、試算精度はやや劣る。当該地域では自用物件が主体であり、市場では取引価格が重視される傾向にある。よって、比準価格を重視し、収益価格を比較考量のうえ、単価と総額との関連にも留意して、鑑定評価額を上記のとおり決定した。										
(8) 公示 規 価 格 と し た 価 格	① ☐ 代表標準地 ☒ 標準地 標準地番号 名古屋北5-2		②時点 修正	③標準化 補正	④地域要 因の比 較	⑤個別 的要因 の比 較	⑥対象基準地 の規準価格 (円/㎡)	⑦内 訳 標準化補 正	街路 0.0 交通 0.0 環境 0.0 画地 +7.0 行政 0.0 その他 0.0	地域 要因 街路 0.0 交通 +1.0 環境 +17.0 行政 0.0 その他 0.0	
	公示価格 148,000 円/㎡		[100.8] 100	100 [107.0]	100 [118.2]	[106.0] 100	125,000				
(9) 指定 基準 地 か ら の 検 討	①指定基準地番号		②時点 修正	③標準化 補正	④地域要 因の比 較	⑤個別 的要因 の比 較	⑥対象基準地 の比準価格 (円/㎡)	⑦内 訳 標準化補 正	街路 交通 環境 画地 行政 その他	地域 要因 街路 交通 環境 行政 その他	
	前年指定基準地の価格 円/㎡		[] 100	100 []	100 []	[] 100					
(10) 対象 基準 地 の 前 年 の 標準 価 格 等 か ら の 検 討	①-1 対象基準地の検討 ☒ 継続 ☐ 新規 前年標準価格 123,000 円/㎡			③ 価格 形成要 因の 変動状 況	[一般的 要 因] 原材料価格の高騰や人手不足を背景に建築費が上昇し、地価への影響も顕在化している。加えて、金利上昇リスクにも留意を要する。						
	①-2 基準地が共通地点(代表標準地等と同一地点)である場合の検討 ☐ 代表標準地 ☐ 標準地 標準地番号 公示価格 円/㎡				[地 域 要 因] 国道4 1号線沿いに店舗等が建ち並ぶ既成の沿道商業地域であり、交通量の多さを背景に、商業地需要は概ね安定している。						
	②変動率 年間 +1.6 % 半年間 %				[個別的 要 因] 個別的要因に変動はない。						

鑑定評価書（令和8年地価調査）

令和8年7月6日提出
豊山(県)5-2 宅地-1

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	合同会社千早不動産コンサルティング
豊山(県)5-2	愛知県	愛知第6	氏名	不動産鑑定士 井上 徹
鑑定評価額	175,000,000 円		1㎡当たりの価格	124,000 円/㎡

1 基本的事項

(1)価格時点	令和8年7月1日	(4)鑑定評価日	令和8年7月3日	(6)路線価	[令和8年1月] 路線価又は倍率 倍率種別	円/㎡ 1.2 倍
(2)実地調査日	令和8年6月23日	(5)価格の種類	正常価格			
(3)鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	①所在及び地番並びに 「住居表示」等		西春日井郡豊山町大字豊場字神戸6番1外			②地積 (㎡)	1,410 ()	⑨法令上の規制等		
	③形状	④敷地の利用の現況		⑤周辺の土地の利用 の状況	⑥接面道路の状況	⑦供給 処理施設 状況	⑧主要な交通施設との 接近の状況		1 住居 (60, 200)	
	1.5:1	店舗 R C 2		事業所、小売店舗等 が多い路線商業地域	南西20.2m県道、 南東側道	水道、 ガス、 下水	名鉄味美 1.9km		(その他)	
(2) 近隣 地域	①範囲		東 35 m、西 0 m、南 90 m、北 70 m			②標準的使用		低層店舗事務所併用地		
	③標準的画地の形状等		間口 約 40 m、奥行 約 35 m、規模			1,400 ㎡程度、形状 長方形				
	④地域的特性	特記 事項	特にない		街 路	20.2m県道	交通 施設	名鉄味美駅 西方1.9km	法令 規制	1 住居 (60, 200)
	⑤地域要因の 将来予測		県道沿いの商業地域である。地域要因に特段の変動はなく、当面は現状のまま推移するものと予測する。							
(3)	最有効使用の判定		低層店舗事務所併用地				(4)対象基準地 の個別的要 因	角地 +6.0		
(5)	鑑定評価の手法 の適用		取引事例比較法	比準価格			124,000 円/㎡			
			収益還元法	収益価格			65,600 円/㎡			
			原価法	積算価格			／ 円/㎡			
			開発法	開発法による価格			／ 円/㎡			
(6)市場の特性			同一需給圏は豊山町及び周辺市の商業地域である。需要者の中心は、店舗・事務所等の利用を前提とする地元企業及び個人事業主である。県道沿いに位置するが、繁華性は高くない。地価はこのところ堅調に推移してきたが、建築費の高騰や金利の上昇基調などから、先行きは不透明な状況である。取引総額については、規模・用途等に応じて多様性が認められ、中心となる価格帯は見出し難い。							
(7)試算価格の調整・ 検証及び鑑定 評価額の決定の 理由			比準価格は対象基準地と価格牽連性の高い商業地の取引事例を採用して比準したものであり、当地域の不動産市場の現実的な動向を反映した実証的で説得力の高いものである。一方、当地域では土地価格に見合う賃料水準が形成されていないことから、収益価格は低位に求められた。以上のことから、本件では比準価格を標準とし、収益価格は参考にとどめ、周辺の標準地との均衡にも留意して鑑定評価額を上記のとおり決定した。							
(8) 公示 価格 とした	① ☐ 代表標準地 ☒ 標準地 標準地番号 豊山5-1	②時点 修正	③標準化 補正	④地域要 因の比 較	⑤個別的 要因の 比較	⑥対象基準地 の標準価格 (円/㎡)	⑦内 訳 標準化 補正	街路 0.0 交通 0.0 環境 0.0 画地 0.0 行政 0.0 その他 0.0	地域 要因 街路 0.0 交通 -1.0 環境 +1.0 行政 0.0 その他 0.0	
	公示価格 117,000 円/㎡	$\frac{100.5}{100}$	$\frac{100}{100.0}$	$\frac{100}{100.0}$	$\frac{106.0}{100}$	125,000				
(9) 指定 からの 検討	①指定基準地番号	②時点 修正	③標準化 補正	④地域要 因の比 較	⑤個別的 要因の 比較	⑥対象基準地 の比準価格 (円/㎡)	⑦内 訳 標準化 補正	街路 交通 環境 画地 行政 その他	地域 要因 街路 交通 環境 行政 その他	
	前年指定基準地の価格 円/㎡	$\frac{\quad}{100}$	$\frac{100}{\quad}$	$\frac{100}{\quad}$	$\frac{\quad}{100}$					
(10) 対 象 基 準 地 の 前 年 の 検 討	①-1 対象基準地の検討 ☒ 継続 ☐ 新規 前年標準価格 123,000 円/㎡			③ 変 動 状 況 格 成 要 因 の	[一般的 要 因] 建築費の高騰が続いている。住宅ローン金利に上昇のきざしが見られる。豊山町の人口は微増から横ばい傾向である。					
	①-2 基準地が共通地点（代表標準地等と 同一地点）である場合の検討 ☐ 代表標準地 ☐ 標準地 標準地番号 公示価格 円/㎡				[地 域 要 因] 地域要因に特段の変動はない。					
	②変動率 年間 +0.8 % 半年間 %				[個別的 要 因] 個別的要因に変動はない。					